

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年10月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0174600601		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホーム ふれあい稲田1・2		
所在地	〒080-0023 帯広市西13条南39丁目6-33 (電話) 0155-49-7150		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年9月9日	評価確定日	平成21年10月14日

【情報提供票より】 (平成21年8月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年9月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12人, 非常勤 6人, 常勤換算	11.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	24,000~29,300 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		700 円

(4) 利用者の概要 (8月10日現在)

利用者人数	18名	男性 7名	女性 11名
要介護1	7名	要介護2	4名
要介護3	2名	要介護4	5名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 84歳	最低 68歳	最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北斗病院・なりた歯科クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、住宅地で学園地区でもある緑豊かな地域に立地している。職員は笑顔で利用者と接し、健康面だけでなく心の変化も見落とすことないように努め、家族にとの連携も密に行っている。開設時からの利用者が多く、管理者はできるだけこれまでの生活を維持できるよう職員と話し合いを重ねながら、ケアの質の向上を目指している。職員の異動も少なく、利用者は安定した穏やかな日常生活を過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題であった、地域の社会資源を活用した親密な地域づくりについては、夏まつり参加や防災訓練に参加するなど、改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に全員で取りみ、個々の気付きを会議で話し合い、職員の振り返りの場としてサービスの質の向上につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、利用者家族、町内会役員、民生委員、地域包括センター職員、施設長、管理者で運営しており、この会議を活かして地域の方々の防災訓練への参加を実現した。また、会議の中でノロウイルス、成年後見制度、介護事故報告基準等について説明をしている。さらに、参加者の疑問や質問に答えたり、会議終了後は、記録をもとに職員が話し合い、ケアの改善に結び付けている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見は、日常生活での電話連絡や来訪時などに聞くようにしている。また、運営推進会議に家族の代表が2名参加していることが、話しやすい雰囲気作りにつながっている。意見や苦情があれば、できる限りの早期対応を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会へは、2ヶ月に1度発行している事業所の便りを回覧したり、事業所の祭りに参加を呼びかけるなど、交流への働きかけを行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人のケア理念として「社会とのつながりを考え、さまざまな人とのふれあいを大切にす		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、会議の中で理念について話し合っている。理念に基づいたケアの実践に結びつくように、理念の共有に努めながら、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内に、「ふれあい稲田通信」を回覧している。散歩の時など、地元の人々と挨拶を交わしている。利用者と地域住民と一緒に選挙に行ったり、夏まつりへの参加を呼びかけるなど、交流に努めている。今後もさらに地域との交流を深めようとして自己評価でも確認している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で行い、管理者がまとめている。自己評価をする中で職員は、地域との交流について改めて考えるなど、日ごろのケアと共に振り返る機会となっており、評価の意義を理解し、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月ごとに行われている。事業所の運営状況や行事の報告などを行っている。参加者の意見や質問は記録して職員会議で話し合い、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長は市の担当者と必要に応じて電話連絡をしたり、出向くなど緊密に連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族には、来訪時や電話などで、利用者の近況を伝えており、「ふれあい稲田通信」を2ヶ月に1回送っている。また、担当職員が利用者の状態等を、預かり金の出納状況と共に家族へ報告している。状況変化時には、その都度電話で連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した時などに、気軽に意見等を伝えられるよう雰囲気作りに努めている。また、家族は運営推進会議にも参加しており、発言する機会を得ている。苦情窓口も事業所内に掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限に抑えているが、やむを得ない場合は十分な引き継ぎ期間を設け、利用者へのダメージをできるだけ防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を、管理者や職員は段階に応じて受けている。しかし、職員はグループホーム協議会等が実施する外部の研修会に参加する機会が少ない。	○	外部研修に参加できる機会を確保し、働きながらトレーニングしていくことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修会に、管理者が参加している。法人内には多くのグループホーム等があり、研修会を通じた交流の機会をもっている。	○	職員も地域の他の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや研修会活動を通じてサービスの質の向上に取り組むことに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの相談を受けた後、本人と家族が見学をし、管理者や職員と話し合いながら事業所になじめるよう、工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、食器拭き、洗濯物たたみ等、出来ることを行っている。また、職員は調理の仕方、畑の手入れ、地域の歴史などを利用者から学ぶこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	通院介助や入浴時など利用者と一対一になる時に、悩みなどを聞くようにしている。会話の苦手な人に対しては、表情を読んで利用者の希望に沿うように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は担当者が評価を行い、カンファレンスやスタッフ会議で話し合いを重ね、さらに、介護支援専門員や計画担当者とも相談の上、家族の意見も聞き、作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	退院時や状況に変化があったときは、期間に関係なく管理者と職員が話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関と連携を取り、看護師が週2回訪問して、健康管理を行っている。また、なじみの床屋や通院介助等の外出などに柔軟に対応している。さらに、法人のバスで外出することもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれが、かかりつけ医に受診できるよう職員が対応している。服用している薬に変更があった場合などは、その都度、家族に電話連絡をしている。特に変更が無ければ、便りや訪問時に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の現状を理解してもらい、家族や医師と重度化や終末期に向けた対応について相談、話し合っている。また、事業所で、できないことを職員間で話し合い、家族と医師に確認をしながら方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室にはトイレと洗面所が設置されており、職員は利用者のプライバシーを損ねることがないように、言葉かけや対応に気を付けている。記録等の個人情報の取り扱いにも注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としての1日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に、利用者の希望で散歩や買い物など、個別に対応をするなど、できるかぎり希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が作った畑の作物が食卓に出ることもあり、好評であり食事が楽しみなものとなるよう工夫している。職員が声かけし、一緒に準備や片付けも行っていて、一人ひとりの力を活かす工夫もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、朝9時から入浴でき、夕方4時位には入浴は終了している。夜間の入浴希望者はいない。その日の健康状態を確認し、本人の希望を聞いて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の順備から下膳、食器洗い、掃除、裁縫、ゴミ捨て等、利用者の張り合いや喜び、気晴らしや楽しみとなるように、生活のスタイルを尊重しながら支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は買い物や散歩、床屋など、できるだけ外出するように支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員は、鍵をかけることの弊害を理解し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防災訓練を行っている。消防署の指導を受けながら、救命救急法、心肺蘇生、AEDの使い方等の講習会を実施しており、地域住民も一緒に参加している。		
e					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、栄養バランス、水分量等、1日を通して確保出来るようにしている。利用者それぞれの健康状態や習慣に応じた、支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光が入らないように配慮をしている。居間には行事の写真や利用者の作品を飾り、生活感や季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物、好みの物、仏壇等を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。		

※  は、重点項目。